

式辞 登校坂の満開だった桜も散り始め、春本番を迎えようとしている今日の佳き日に、振興会会長 佐伯玄一郎（さえき げんいちろう）様、まつら同窓会会長 中島 幸利（なかしま ゆきとし）様をはじめ、振興会及び「まつら同窓会」の役員の皆様、並びに新入生の保護者の皆様のご臨席を賜り、令和2年度 佐賀県立唐津西高等学校 第六十五回入学式を挙行できますことをこころよりお礼申し上げます。

さて、ただ今本校への入学を許可されました百六十名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本校は、明治四十年（1907年）に町立唐津女学校として創立されて以来、「朝（あした）に希望 夕べに感謝」の建学の精神のもと、幾多の変遷を経ながら昭和三十一年に唐津西高等学校として出発し、本年度で百十三年の歴史を積み重ねてきた、長い歴史と伝統を誇り、令和という新しい時代に新たな歴史を作り上げることができる学校です。卒業生の数は二万人を超え、地元唐津市及び佐賀県はもとより、国内外の各分野で活躍されています。

新入生の皆さんは、こうした本校の魅力を十分に理解し、見事入学試験を突破して、今日の日を迎えていることと思います。実は、皆さんが着ているこの制服は、襟の内側に校章と1907という創立年の数字を入れたタグが付いており、西高生としての自信と誇りが、自然と身に付くように工夫されています。どうか、今の清新な気持ちを大切に、明日からの本校での生活を送ってください。

本校は、学校教育目標を「Society5.0（超スマート社会）を逞しく生き抜く、持続可能な社会の作り手としての資質を持つ人間の育成」及び「ふるさと唐津・佐賀の郷土と自然を誇りに思い、地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成」と定め、そのために「人とつながる力を大切に、情報の取捨選択ができる、確かな人間力を持つ」と「協働の精神を持ち、地域の課題を発見し、地域から信頼される」者の資質の育成を目指しています。そこで、皆さんには、次のことをお願いしたいと思います。

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で3月がほぼ学校が臨時休業となり、約1か月強、学校がお休みとなりました。東京や関西及び近隣県、県内でも新たな感染者が増えています。いつまた、臨時休業になるかわかりません。全国の高校生の学校生活がピンチです。高校では、もちろん毎日の学習に取り組み、そこから多くのことを学びとって、自分自身の力とすることが求められます。しかし、学校という場で学びを得ることは、それだけではありません。みなさんが選択した高校というステージの先には、長い人生が待っており、「ピンチをチャンスに変える」意識が「他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる」という自分自身の生き方を作り上げる力すなわち「自走力」となると思います。

人は一人では生きていけません。人と関わる中で自分自身のことがわかり、社会で生きていく力「人間力」や積極的に他者や社会と繋がろうとする力「共感力」などが養われていきます。積極的に人と関わり、人から学ぶことは、自分の将来を考えるうえで必要不可欠なことです。高校生活の中での多くの人との出会いを大切にしてください。

唐津西高校の歴史、明治・大正・昭和・平成・令和と同じように、みなさんの未来は、今、現在からつながっています。本校の伝統ある建学の精神である「朝（あした）に希望、夕べに感謝」の気持ちを持って全力で取り組んでください。

保護者のみなさまに申し上げます。お子様のご入学、誠におめでとうございます。本日よりお子様をお預かりいたしました以上は、本校職員一同、「師弟同行」の精神で、学習面はもちろん、生活面におきましても、きめ細かに、時には厳しく叱咤激励しながら、指導してまいります所存です。

しかし、先程も申し上げましたが、感染症の拡大防止及びお子様の健全な心身の成長は、学校現場の指導だけでは到底叶えられるものではなく、ご家庭や地域の方々のご理解とご協力が必要であることは言うまでもありません。本日からの三年間、物心両面で多くのご支援を賜ることになりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、本日ご臨席賜りましたみなさまに心から感謝申し上げますとともに、新入生の皆さんへの期待の一端を述べて、式辞とさせていただきます。